

## ■ <メディアと子ども／若い人たち>研究プロジェクト

### オスロ・チャレンジと MAGIC ネットワーク

#### 「子どもの権利条約」10周年記念国際会議から生まれた「オスロ・チャレンジ」

子どもの権利条約の批准から10年を経た1999年11月、この条約の実現で中心的な役割を果たしたノルウェー政府が、ユニセフの協力のもとに、首都オスロで「子どもの権利条約」10周年を記念する国際会議を開催した。オスロ会議には、さまざまなメディア・プロジェクトに参加している子どもや若い人たち、メディアの職業人やメディア関係者、子どもの権利の研究者が世界各国から招かれ、主として次の側面から、子どもの権利の発展とメディアがその発展で担うべき役割について討論をもった。

- ① 子どもがニュースメディアをふくむメディアへアクセスする権利
  - ② メディア教育、メディア・リテラシーへの子どもの権利
  - ③ 子どもがメディアに参加する権利
  - ④ 子どもがメディアの有害な内容や画面上の暴力から保護されることを保障する権利
  - ⑤ 子どもの権利を擁護し推進するメディアの役割
- オスロ会議の成果は「オスロ・チャレンジ」と呼ばれる行動計画としてまとめられたが、そこでは、次の6領域の各々でチャレンジ（挑戦）し行動すべきこと、何をなすべきかが、きわめて具体的に示されている。6領域とは、政府、子どもとかかわる仕事をしている組織や個人、あらゆるメディアにかかる職業人・関係者、子どもや若い人たち、産業界・メディア所有者、親・教師・研究者、である。その具体的な内容を訳出すと、次のようになっていく。

#### ●政府に求められる行動

- ① 子どもはコストではなく投資であり、負担ではなく可能性であることを認め、子どもの現実を、メディアに関連するものをふくめ、政策として実現する。
- ② 子どもの権利条約の第12条、13条、17条の実現を図る。
- ③ 子どもや若い人たちの情報アクセスに必要なリソースの提供を保障する。
- ④ 子どものアクセスを高め、彼らのニーズに応え、子どもの権利を推進する目的で行われる取り組みを支援する。
- ⑤ 独立したメディアが基本であり、検閲や支配は子どもとおとなとの両者にとって望ましくないことを確認し、メディアが独立と専門で十分に機能することのできる環境を確保する。

#### ●子どもとかかわる仕事をしている組織や個人

- ① メディアの独立の必要性を民主主義の構成要素として尊重する
- ② メディア専門家と協力しながら、子どもの権利を推進し、擁護し、子どものニーズに応える
- ③ メディアが子ども問題に関する情報について信頼できるリソースへアクセスできることを保障するために、効果的なメディア・リエゾンを提供する
- ④ 広報や募金でミスリプレゼンテーションを規定するメディア・リエゾン政策を開発することで、子どもにかかる問題の正確な報道を推進する。

## ●すべてのメディアのあらゆるレベルではたらくメディア人

- ① メディアではたらく人々のあいだで子どもの権利の問題を提起し、その擁護と推進がどのように可能になるか、また不適切な政策や行動によってどのように損なわれるかについて、具体的に考える
- ② 扇情的なやり方、ステレオタイプ化（ジェンダー・ステレオタイプをふくむ）、子どもを見下したり、子どもの権利を軽視したりすることを避けるために、メディアの倫理綱領を開発し推進する。
- ③ 商業的圧力に抵抗する。とくに、子どもにかかわる問題や子どもの権利を、表現の自由、公正な報道、搾取からの保護、消費者、などの点を軽視する商業的圧力に抵抗する。
- ④ 子どもとメディアの関係を高め、その肯定的な力と否定的な力の両方の理解を推進するためにはたらく。

## ●子どもや若い人たち

- ① 子どもの権利条約にかかっている自分たちの権利を知り、理解し、それらの権利を実現する方法を求め、開発する。これには、情報と多様な視点へのアクセスする権利、自分たちがメディアとその開発に積極的に参加する方法を求めることが含まれる。
- ② メディアについて学び、メディア消費者として十分な情報を得て選択することができるようになり、メディアが提供する多様性の最大の利益を手にすることができるようになることをめざす。
- ③ メディア制作への参加の機会をもち、メディア制作者に対して肯定、否定の両方でフィードバックする。
- ④ 子どもとメディアの肯定的な関係を支持する人びと、親、教師、他のおとなや若い人たちと、

メディアについての考えを共有する。

## ●産業界、メディア所有者

- ① 新しいメディア製品や技術の開発で、子どものアクセル、参加、メディア教育、有害なメディア内容からの保護、などに関する子どもの権利に配慮する。
- ② 商業的・財政的成功の追求において、子どもの最善の利益を最優先する。それによって今日の子どもが、すべての人びとが保護され、尊重され、自由になるようなグローバルな世界でおとなになるようになる。

## ●親、教師、研究者

- ① 子どもがメディアへアクセスし、参加し、それを彼らの向上のために利用する権利を認め、支持する。
- ③ 子どもがメディア消費者として十分な能力を発達させて選択できるようになる保護的で支援する環境を提供する。
- ④ メディアのトレンドと方向性について可能な限り多くの情報をえて、フォーカスグループなどのフィードバック・メカニズムへの参加や、メディア内容へのコメントや苦情の手続きを使って、そのようなトレンドや方向性の形成に積極的に貢献する。

## もうひとつの成果、インターネットサイト「MAGIC ネットワーク」の開設

オスロ会議の成果として重要なもうひとつの点は、「オスロ・チャレンジ」を推進するためのグローバルなネットワークがインターネット上で開設されたことである。この「MAGIC ネットワーク」<http://www.unicef.org/magic/index.html>は、それ以来、子どもとメディアの領域で活動する専門家、研究者、市民組織（NPO/NGO）のあいだで情報と理念を共有し、連携を強めていくという目的のもとで、

日々、活発に情報活動を行っている。

MAGIC サイトの運営はノルウェー政府の基金で行われており、その設計、内容の作成、日々の更新などの具体的な作業にはイギリス、チェコなど世界各地に在住する個人とその NPO/NGO が参加している。サイト上の情報は対象別に子ども (MAGIC children)、親 (MAGIC parents)、メディア (MAGIC media)、政府 Government)、教師 (Teachers)、企業 (Private sector)、NPO/NGO、とわかりやすく整理されている。頻繁に更新されるニュースやリソース (資料) のセクションもあり、それぞれリンク先も豊富である。

MAGIC ネットワークは英語によるサイトではなるが、メディアと子どもの問題に关心をもつ人にとっては不可欠な情報源といえる。私たちは MAGIC にアクセスすることで、いま、この領域で何が問題になっているかを知り、何ができるか、何をなすべきかをグローバルな視野で考え、それぞれの行動で生かしていくことができるだろう。

(まとめ 鈴木みどり)

—『fctGAZETTE』No. 86(2005年7月)掲載—